
QA25 低線量被ばくによる健康への影響はどのようなものですか。

放射線による発がんリスクは、100 ミリシーベルト以下の被ばく線量では、明らかな増加を証明することは難しいとされています。

広島・長崎の原爆被爆者の疫学調査の結果から、原子爆弾による短時間での被ばくについては、被ばく線量が100 ミリシーベルトを超えるあたりから、被ばく線量に依存した発がんリスクの増加が示されています。なお、長期間の継続的な低線量被ばくの場合には、同じ100 ミリシーベルトの被ばくであっても、より健康影響が小さいと推定されています。

一方、100 ミリシーベルト以下の被ばく線量では、他の要因による発がんの影響によって証明することは難しいとされています。なお、平成21年のデータによれば日本人の約30%ががんで亡くなっていますが、100 ミリシーベルトを短時間に被ばくすると、生涯のがん死亡リスクは約0.5%増加すると試算されています。

放射線と他の発がん要因の比較

喫煙	1,000～2,000 ミリシーベルト相当
肥満 ^{※1}	200～500 ミリシーベルト相当
受動喫煙 ^{※2}	100～200 ミリシーベルト相当
野菜不足 ^{※3}	100～200 ミリシーベルト相当
※1：BMI（身長と体重から計算される肥満指数）23.0～24.9のグループに対し、BMI≥30のグループのリスク。 ※2：夫が非喫煙者である女性のグループに対し、夫が喫煙者である女性のグループのリスク。 ※3：1日値420gの摂取のグループに対し、1日当たり110g摂取のグループのリスク（中央値）。	

参考：低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループ報告書

<http://www.cas.go.jp/jp/genpatsujiko/info/twg/111222a.pdf>

統一的な基礎資料の関連項目

上巻 第3章 115 ページ「低線量率被ばくによるがん死亡リスク」

出典：復興庁「避難住民説明会等できよく出る放射線リスクに関する質問・回答集」より作成

出典の公開日：平成24年12月25日

本資料への収録日：平成25年1月16日